

大学名 琉球大学

第70号 特集テーマ「博士人材の活躍」

表題 専門的資料群「沖縄関係資料」の収集・整理・資料照会への回答等の業務

取組の概要

琉球大学附属図書館では、本学特有の資料群を専門に扱う部署に、博士取得者を主たる構成員とした職員を配置しています。

特色ある取組

沖縄には、島嶼地域の多様な自然環境・固有の文化・島相互あるいは周辺諸国・地域との関わりの歴史があります。そこで、本学附属図書館は、沖縄県全域、奄美全域を中心とした琉球列島を主題とした歴史的資料を「沖縄関係資料」として収集しています。その資料の特徴は以下のとおりです。

- この資料群は、積極的かつ網羅的に、かつ「沖縄関係資料」として長期に保存するべき資料を、現代の刊行物のみならず、古文書と呼ばれる文書類からも選択する必要があります。
- さらに、沖縄は「出版王国」「県産本」と呼ばれる独自の出版文化があり、また市町村から字単位までの地域誌が今なお盛んに編まれている地域でもあり、収集過程においても、幅広い専門知識や地域社会とのコネクションを持っている必要があります。
- 図書館資料として、保存を主眼としつつも、広く一般に利用できなければ価値がありません。そこで、保存をしつつかつ普遍的・継続的に利用できるよう、資料本体はもちろんのこと、資料そのものの情報も、的確に整理する必要があります。
- これらの資料についての照会や、記載事項についての確認が学内のみならず、海外を含めた学外からもあり、これらに適切に対応する必要があります。資料に関する専門的な知識が要求され、また周辺情報も含めた資料群に精通している、博士2名を承継職員として、また博士1名を有期雇用職員として採用しており、資料郡が適正に活用されるように配置しています。

海外の大学図書館では、「特定主題や学問分野の専門的知識を持つ図書館員で、その主題領域の資料選択と評価に責任を持つ*1」、サブジェクト・ライブラリアンが設置されており、利用者からの照会等に応じております。日本の大学図書館では、そこまでの体制はなかなかないのですが、本学附属図書館は、このサブジェクト・ライブラリアンの具現化ができています。(*1 図書館情報学用語辞典 第5版による定義)

期待できる成果

- 資料に関する幅広い知識を生かした、データベースの構築及び運用が可能で、実際に運用中です。例えば：
 - 「琉球・沖縄関係貴重資料デジタルアーカイブ」
 - 「沖縄文献情報データベース」
- 琉球列島に係る、学内外からの専門的照会に適切に対応でき、所蔵資料を用いた相談に応じることができています。
- 博士課程で得られた専門的知識や地域との繋がりを生かした職務であり、キャリアパスの一つの選択枝たり得ます。

「沖縄関係資料」開架書庫



参考URL

「沖縄関係資料」の概要(解説ページ)

<https://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/okinawa/page-1586/>

【成果データベース】

琉球・沖縄関係貴重資料デジタルアーカイブ
<https://shimuchi.lib.u-ryukyu.ac.jp/>

沖縄文献情報データベース「BIDOM」

<https://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/bidom/>